

経営探訪

【有限会社 十文字光学】

十文字光学独自の研磨機が並ぶ。「工場を見に来て、これだけの設備が揃っているのを見て驚かれる方もいらっしゃる」と大木社長。

「生き残るために、自ら考え、自ら実行する」

人を磨き、ガラスを磨き、成長を図る

昭和52年の創業以来、産業用平行平面光学板ガラスの製造を主軸としてきた十文字光学。丁寧で高品質な製品づくりと長年の実績で、顧客との長い信頼関係を築いてきた。ここ数年は、人材育成に力点を置いた社内教育を行い、その成果が現れてきている。「生き残るために、自ら考え、自ら実行する」、そんな意識が全体に浸透しつつある。



代表取締役
大木 紀子
Noriko Ooki

創業以来培ってきた高い技術力

十文字光学は目の前に田んぼが広がり、遠くに出羽山地の山並みを望む旧十文字町の田園風景の中に工場を構える。産業用平行平面光学板ガラスの製造技術において、国内で高い評価を受け、広く関東・関西エリアに顧客を持つものづくりの現場がこんなのかな環境にあるのが少し不思議に感じられる。

十文字光学の前身は埼玉県さいたま市(当時は大宮市)にあった大木光学工業所が昭和47年に設立した秋田工場である。それが昭和52年に同社から分離され、新たに十文字光学としてスタートを切った。創業当初から産業用平行平面光学板ガラスを手がけており、平成11年9月に2代目社長に就任した大木紀子氏は、平成14年にISO14001認証を取得、職場の環境管理やエコ

意識の改善、リサイクルなどを推し進めてきた。その後、リーマンショックや東日本大震災などの厳しい状況の中、長年培ってきたガラス研磨技術を武器に全社一丸となって危機を乗り越えてきた。

細やかな対応で信頼を積み重ね

十文字光学の仕事はガラスの研磨加工。材料となるガラスを預かり、要望通りの形状・大きさ・厚さに加工して出荷するのが役割だ。平行度や平面度など、高い要求精度を満足させられるのが、同社の提供する付加価値である。

主力製品の「産業用平行平面光学板ガラス」では、外径1~18インチ、板厚0.15~30ミリまでと、広いレンジに対応している。近年の電子産業の成長に伴って、顧客の要求はますます高くなっており、薄く、小さく、繊細

な製品が増えているが、同社の設備は小型機から中・大型機まで小刻みに充実していることで、多種多様な要望にも最適な作り方で応えることができる。「研磨したガラスは、次の工程の他社工場に運ばれ、さらに小さなサイズに加工されます。ガラスに凹凸や歪みがあれば次工程に支障が出てしまいますから、高い加工精度と厳格な品質管理が要求されます」と大木社長。受注生産が主となるこの業界においては、営業活動はそれほど頻繁ではない。だからこそ、1つ1つの注文に真摯に応え、信頼を積み重ねてきた。現在の取引先はいずれも長年の継続顧客であり、それこそが信頼の現れでもある。

「人づくり」こそが経営を支える

同社では3年ほど前から人材育成を柱にした社内環境の改善に取り組んでいる。外部環境が厳しくなり、顧客の要求も高まる中、同じ工場・同じ設備で、技術力を高め、業績を伸ばしていくにはどうしたら良いか、その答えは「人材」にあると大木社長は考えた。

社員の自主性を引き出すために取り組んだ施策の1つが毎日の朝礼だ。大木社長は「みんなと朝の挨拶をしてから仕事を始めたいと思って、一番乗りして社員を待ち構えているんです」と笑うが、社員の声を引き出しやすくする経営者の物腰・佇まいも場づくりの大事な要素の一つ。大木社長の狙いは、一日の始まりに社員同士が顔を合わせて今日の業務内容を共有し、自分の担当範囲だけでなく、全体の流れを把握することで、仕事に対する姿勢や理解が変わるのではないかというものだった。

変化は徐々に現れてきた。まず、一人一人が必ず声を出せるような項目を取り入れたことで、発言の出にくさが解消されてきた。次いで、他の担当との意見交換や提案が出てくるようになった。前工程と後工程の受け渡しだけでなく、起点から終点までを見越した上で、「会社として責任ある製品を、顧客にも作り手にも最適な形で生み出すにはどうしたら良いか」、そんな意識が現れるようになった。

こういった社内の変化がものづくり集団の力になると大木社長は信じ、期待する。人の経験や勘に頼る部分の大きいものづくりの現場では、「自分のノルマさえ消化すればいい」という意識から脱却し、自ら発信してお互いに刺激し合い、高め合っていくことで、人も企業も成長していくことが大事だからだ。設備の性能の限界を引き出し、製品の精度・品質の限界を引き上げる、そんな挑戦はもはや彼らにとっては挑戦ではなく、日頃の習慣と化している。ガラスの極小化・極薄化・高品質化に拍車がかかる中、新規顧客の開拓や歩留まりの抑制、技術の伝承など、取り組むべき課題はまだ多い。しかし、それぞれが考えて、実行する集団に変化しつつある今、どんなハードルも社員とともに乗り越える楽しみを大木社長は感じている。



- A 製品のサイズや形状は多種多様な職人の技術が活かされる
- B 加工品が規格に適合しているかを検査するクリーンルーム(CLASS1000)
- C 研磨工程(最終工程)にて仕上げた平行平面光学板ガラス
- D 重要な光学精度(平面度)を支えるラップ工程

有限会社 十文字光学

〒019-0505 秋田県横手市十文字町仁井田字家西5-6
TEL 0182-42-0367 FAX 0182-42-2660
E-mail jop@cocoa.ocn.ne.jp
URL http://www.j-optical.com

- 創業/昭和52年10月17日
- 資本金/2,400万円
- 従業員数/36人
- 営業品目/光学及び電子産業用平行平面ガラス製造(成形~Final Polish一貫生産)